

平成 3 1 年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	
施 設 名	横浜みなとみらいホール	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	4,878	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	2,535 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,343 (千円)

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	誰でも音楽に触れられる社会を目指すプログラム	2019年7月3・5日、 10月5日	講師：三浦はつみ、東京藝大 COI 拠点スタッフ／出演：アーツスペシャル合奏団、ヤマハドラムサークル	目標値	50
		大ホール ほか		実績値	65
2	横浜みなとみらいホールアウトリーチ事業	2019年12月 ～2020年2月	講師：松井イチロー	目標値	400
		市内小学校		実績値	256
3	わくわくJAZZ♪	2019年7月～10月	講師：熱帯JAZZ楽団 & Lowland Jazzメンバー	目標値	1,050
		大ホール ほか		実績値	1,196
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>横浜みなとみらいホールは、開港以来 150 年余の新たなものを受け入れてきた歴史を持つ「横浜」の音楽専門ホールとして、370 万の市民の多様なニーズに応え、音楽文化を通じた地域の魅力向上と賑わいの創出に努めています。</p> <p>人材養成事業の「ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム」では、開館以来、鑑賞事業や普及啓発事業にも活用されている「ホールのシンボル」のパイプオルガン“ルーシー”及び地域のオルガン事業を、将来にわたって支えうる人材を発掘・育成する場となりました。「金の卵見つけました。」では、音楽文化を支える次世代育成の観点から、コンチェルトソリストオーディションから始まり、最終的にコンサートホールで一流の奏者と共演するという最高品質な実践と研鑽の機会を提供しました。「みなとみらい Super Big Band 育成事業」では、日本の「ジャズのふるさと」を自認する横浜という地域に、中高生をメンバーとした継続的に活動するビッグバンドを組織することで、将来の音楽文化の裾野を多面的に拡大できました。</p> <p>普及啓発事業の「誰でも音楽に触れられる社会を目指すプログラム」では、盲特別支援学校や外部の専門組織、機関等との多様な連携・協働により、社会包摂という幅広い視点でプログラムを実施できました。「横浜みなとみらいホール アウトリーチ事業」では、子どもたちの日常の場である学校で、プロのアーティストに触れる環境を作りだし、子どもとアーティストをつなぐ役割を果たしました。「わくわく JAZZ ♪」では、公募で集まった中高生がプロのアーティストたちとともに同じステージで演奏し、世代を超えて音楽でつながる場となりました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で一部活動回数が減った事業がありますが、各事業の目的は概ね達成できました。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>全国でも最大の政令指定都市の中で、観光が中心の一つでもある地域に立地する横浜みなとみらいホールは、単なるコンサートやワークショップの開催に留まらない多種多様なニーズに応えるミッションを持ち、それを果たせるだけの設備や実績で培った独自性を有しています。</p> <p>一例として、ホールオルガニストは、単に演奏するだけでなく、そのホールのオルガンについて深く理解し、利用者への説明・調整を行うだけでなく、長期的なメンテナンスや維持管理を目的とした適切なアドバイスを行うため、多岐にわたる専門的な知識やノウハウを有している必要があります。横浜はその歴史的な経緯もあり、多数のパイプオルガンが存在する稀有な土地柄ですが、ホールオルガニストに必要な事を統一的・継続的に学べる場は当館のほかにはありません。「ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム」では、継続的な実施によって指導・研修のノウハウが蓄積され、そこで研鑽を積んだインターンシップ修了生が各地で活躍することで幅広いネットワークが構築されるという他にはない環境を創出しています。</p> <p>同様に「金の卵見つけました。」、「みなとみらい Super Big Band 育成事業」も、単なる演奏技術を指導するだけでなく、音楽を通して人とつながる場を創り出し、参加者がその経験を将来につなげるという仕組みを継続的に展開しています。また「わくわく JAZZ ♪」においても、プロのアーティストが中高生たちと同じステージで演奏することは、アーティストにも刺激になり今後の更なる飛躍にもつながるものと言えます。</p> <p>「誰でも音楽に触れられる社会を目指すプログラム」や「横浜みなとみらいホール アウトリーチ事業」では、地域のアーティストによる NPO や専門知識を有する組織・学校などとの連携を継続的に行い、音楽ホールだけでは企画・実現できない取り組みにも積極的に参加しています。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

今回の事業では、地域の中核的音楽ホールとして、その機能を最大限発揮するための「演奏者」「スタッフ」の育成と、年齢、性別、国籍、障がいなどの有無にかかわらず、すべての人に向けた音楽文化の提供の2つを主たる目的としました。

前者については、17年にわたって実施してきた「オルガニスト・インターンシップ・プログラム」を継続し、今回2名を採用して、1年にかけて実際のコンサートやワークショップの現場で演奏者としてだけの役割ではない「ホールオルガニスト」としての研鑽を積んでもらうことができました。また、「金の卵を見つけました。」では、音楽文化を支える次世代育成の観点から、才能溢れる青少年を対象としてオーディションを、一流の演奏家で構成されるNPOとの連携で実施し、未来の優れた演奏家となる可能性を秘めた子どもたちに最良の環境で演奏する機会を提供しました。「みなとみらい Super Big Band 育成事業」は、過去6年間にわたって継続してきた中高生を対象とする企画ですが、彼らの自身の成長とともに、その活動を拡大させながら、普段はホールへ足を運ぶことの無い層や、市域を超えた幅広い範囲に向けてホールの存在と活動をPRすることができました。

すべての人に向けた音楽文化の提供としては、「横浜みなとみらいホール アウトリーチ事業」、「わくわくJAZZ♪」では、プロのアーティストと子どもたちをつなぎ、ワークショップや演奏を通じて相互にとって音楽文化の創造性を体験出来る場となりました。「誰でも音楽に触れられる社会を目指すプログラム」では、ホールが手掛けるソーシャルインクルージョン企画の中核として、障がいをお持ちの方が負担や気負いなく音楽文化にアクセスできるようになるためのノウハウやテクノロジーに触れられる場を外部の団体・組織等と協働しながら作り、今後も継続して展開できるような知識や経験を蓄積することができました。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

通年、かつ、継続した企画である「ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム」と「みなとみらい Super Big Band 育成事業」については、過去の実施状況を踏まえた計画立案となっており、予定通り実施を進めました。しかし、「みなとみらい Super Big Band 育成事業」においては、台風 19 号そして新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、演奏回数・公演数が少なくなりました。「オルガニスト・インターンシップ・プログラム」でインターンの育成を担うホールオルガニストは、その業務を行うために多岐にわたる知識や技能が必要とされます。また、そうしたオルガンに対する多岐にわたる知識や技能を習得するためには、きちんとメンテナンスされているオルガン、実践の場として機能するための演奏する機会など、様々な条件が整っていることが必須となります。そして、そのような環境で一定期間継続して研鑽を積むことで、初めてホールオルガニストとしての実務に耐える人材になりうるということを、過去の 15 回以上のプログラムを通じて感じています。従って、この数年は 1 年間をかけて 1 名という枠で取り組んでいましたが、今回は将来性のある 2 名を採用し、研鑽内容は計画通りに進めました。

「アウトリーチ事業」については、上記に同じく新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定していた学校のうち 1 校で実施を見合わせざるを得なくなりました。

事業費に関しては、助成対象以外の事業の収支状況とのバランスを考慮し施設の事業全体で支出の圧縮を心掛けたほか、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で縮小した事業もあり支出総額が当初予算より減少となっています。ただし、支出の削減・効率化であり、事業の回数や質的な水準は、当初の計画に沿った規模となっています。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

横浜みなとみらいホールは、人口 370 万人を越える横浜市の中心部に立地する 2000 名規模の音楽専門ホールです。そのため、地域の中核的な文化施設として、様々な方面からの多様なニーズに応えることが要請されています。

施設としては、館長に作曲家の池辺晋一郎が就き、そのアドバイザーのための企画委員会を設置して、事業全体の方針やラインナップに目配りするとともに、いくつかの事業に置いては直接の監修も受けています。また、関連する様々な組織・団体との強固で多層的なネットワークを構築し、主催公演・協力公演・貸館利用など様々な場面でそれを活用しながら音楽ホールとしての機能を効果的に発揮しています。

更に、現在のニーズの拡がりには、単に多様で質の高い芸術を鑑賞・体験する場としてだけでなく、近時に高まっている「だれもが文化芸術にアクセスできる」ことを可能とすることへの要請にも応えています。そのため、従来から取り組んでいた普及啓発の段階からさらに一歩進めて、社会的包摂を達成するための事業の充実と、その深化のためのスキルやノウハウの蓄積、音楽文化以外の組織等との協働連携の強化を続けています。

また設備的な側面では、開館から 20 年を超えて、建設時には必要性の認識の薄かったバリアフリーやユニバーサルデザインの観点での要望が増加しています。これに応えるため、レセプションやチケットセンタースタッフなどを中心としたホスピタリティの向上や小規模改修の実施、ホールウェブサイトのアクセシビリティの方針に基づく更新などととも、今後予定している 1 年 10 か月の大規模修繕に向けて、改修事項の決定などを横浜市に協力して行っています。

これらの施設としての方針・課題を、事業の企画レベルに落とし込みながら実施しています。メインホールである大ホールに設置されたパイプオルガン“ルーシー”は、「ホールの顔」であり、市民からのイメージの中心となっておりと同時に、連携事業などを通じた地域との懸け橋の 1 つともなっています。開館以来開催している「オルガン・1 ドルコンサート」をはじめとするオルガン企画を成立させるためには、ホールオルガニストの存在は不可欠です。また、市内に多数あるパイプオルガンを、地域の文化資源として積極的に活用し、賑わいづくりへとつなげるためにも、その役割を担うための人材育成は継続的な課題となっています。「オルガニスト・インターンシップ・プログラム」で育成されたインターンシップ生は、ホール内での研修にとどまらず、施設外での活動も積極的に行える状況となっていますが、これは、ホールとして近隣のネットワークが形成されていることに加え、インターンシップで育成された人材が、演奏家として他のホールや会場でも活躍可能な存在となっていることを証明しています。

音楽文化における社会的包摂の実現のために実施した「誰でも音楽に触れられる社会を目指すプログラム」では障がいや音楽的な経験の有無、年齢などに関わらず音楽文化に触れられる機会を提供するものです。盲特別支援学校と連携したオルガンワークショップでは、学校とオルガニストとホールで事前の打ち合わせを密に行い、音楽の魅力・ホールの魅力を十分に体験いただくことができました。また「音と光の動物園」でも、音楽分野以外の知見やテクノロジーが不可欠であるため、それらを補うために東京芸術大学 C O I 拠点をはじめとした、外部の専門組織やスタッフとの協働を進めました。事業を実施する上では、それら専門機関や団体のノウハウを提供いただいた上で、音楽専門ホールとして（また、公共ホールとしても）それを機能させ、個性を発揮できているのではないかと考えています。いずれにしても、継続的に取り組むべき事業と考えており、様々な情報や知識などを更新、拡大していくことが今後の役割でもあります。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

地域最大の音楽専門施設である横浜みなとみらいホールに対しては、音楽文化を日常的に楽しむ層からは、幅広く質の高い鑑賞事業や、他では体験できない活動ができるワークショップなどへの強いニーズがあります。他方、公共ホールとしての性格上、地域の賑わいづくり・魅力づくりやインパウンドへの貢献、音楽文化に興味の薄い層や子ども・高齢者・障がい者をはじめとした幅広い層への取り組みも求められています。これらの要請に対応するため各事業を実施しました。

「金の卵を見つけました。」では、将来の音楽文化を支える演奏家を見出し、良質な環境で実践経験を積める場を提供するため、青少年を対象としたコンチェルトソリストオーディションという形で企画を展開しています。かつ、その実施運営に際しては、国内の一流の演奏者が中核となっている地域のNPO法人である「ハマのJACK」との協働となっています。この企画を一緒に実施することによって、地域の人的資源を有効活用し、ネットワークを強化する契機となっています。また、オーディションを音響の良いホールで実施し、無料で公開することで、オーディション自体を鑑賞して楽しみ、合格者の公演への期待を高める等PR効果も生まれるようになり、実演者だけが関わる限られた層に向けた企画ではなくなっています。

「横浜みなとみらいホール アウトリーチ事業」では、ホール内に留まらない企画として、市内の学校へプロのアーティストを派遣し、普段の学校の授業の中では体験できない音楽文化を体験するワークショップを開催しました。この企画では、アーティストの技術や知見に、子どもたちが普段過ごしている空間で触れることで、よりリラックスしながら活動に取り組むことができます。また内容も、ホールから一方的に提供するのではなく、子どもたちの性格や特性を一番把握している先生と検討を繰り返して決定するため、より効果的・印象的なプログラムとなっています。さらに、講師として派遣するアーティストは、育成効果を見込んで若手アーティストを積極的に起用したり、その後の学校とのネットワークの形成も視野に入れながら近隣・地元在住のアーティストを選択するなど、「次」に繋がる人材選択を心掛けています。

横浜という土地柄、様々な場面でジャズに触れる機会が多いものの、中学校・高校の部活動などでは、ジャズに取り組むことが難しいのが現状です。ジャズに興味も生まれても「演奏」という形で触れることへのハードルは高く、まして、ビッグバンドのような多人数での活動に参加することは、非常に限られたものとなっています。そのような中でのニーズを掘り起こし、次世代の音楽文化を担う人材育成のための事業が、公募で集まった中高生メンバーによるビッグバンド「みなとみらい Super Big Band」です。彼らの活動は、彼ら自身のニーズを満たすとともに、そのような場が身近にあるということを広め、ジャズに触れたいという子ども達の潜在的なニーズにも応えることとなります。「わくわくJAZZ♪」でも、中高生を公募で集め、プロのアーティストとステージでの共演を目指しました。プロとの共演は、中高生にとってはまさに最高の体験となりますが、アーティストにとっても刺激になり今後の活動にもつながったと言えます。また、クラシックの企画が多数を占めるホールにとって、中高生という年代は、日常的に来館する顧客層とは乖離してしまっている部分がありますが、こうしたコンサートへの来場を通じて、その友人・知人関係も含めた同年代へのホールアピールとなり、来場者のすそ野の拡大にも寄与しています。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

横浜みなとみらいホールの事業実施体制における持続的な発展性としては、ホール外の組織・団体との連携・協働を通じたネットワークの構築と、そこからの情報・ノウハウの蓄積が挙げられます。これらの組織等とのつながりは、単独の事業の実施だけに留まらず、ホールのブランド力の向上や新規事業の立案や貸館運営の円滑化にも役立っています。

「金の卵を見つけました。」では、地域で活動する「NPO 法人ハマの JACK」との連携が中心となります。地域社会に根ざしたクラシック音楽の普及活動を目指す彼らとの協働は、より幅広い層に対して、音楽文化とホールへの興味を喚起してくれています。

「横浜みなとみらいホール アウトリーチ事業」では、教員の方たちとの情報交換が有効に働いています。学校で子どもたちに日常的に接し、地区ごとや年代ごとに差異もある個々の特性を把握している教員の知識や経験は、アウトリーチの実施に留まらず、次世代育成事業の企画立案にフィードできるものとなっています。

「みなとみらい Super Big Band 育成事業」においては、定例の活動として他都市への遠征（イベント参加）を行っていますが、その受入先の都市の担当や一緒に参加する団体との交流を通じて、ビッグバンド運営やイベント参加・開催時のノウハウや知見を収集・蓄積できています。また、参加メンバー同士の交流も密になっており、そこをきっかけとした活動なども充実してきています。

「誰でも音楽に触れられる社会を目指すプログラム」においては、「だれでも音楽文化を享有できる」ために効果を発揮する専門的な知識やノウハウ、テクノロジーを、様々な形で提供してくれる組織等と協働しています。協働においては、それらの組織等も有していない、ホールのような空間や公共施設という縛りの中で企画を展開するにあたってのノウハウをホールから提供したり、一緒に検討・構築したりしており、片務的な状況ではないことで、より深化した繋がりとなっています。